

親の養育態度と幼児の安全行動（第2報）夏休み中の事故の実態

○湯川礼子、星美智子、斉藤幸子、須永 進、高橋種昭、萩原英敏、上甲千鶴子 川島秀二

（日本総合愛育研究所）（日本女子大学）（淑徳短期大学）（淑徳幼稚園）（あかいとり幼稚園）

1 研究の目的

幼児を取り巻く環境は、近年変貌が著しい。この変貌しつつある生活環境の中で、幼児の不慮の事故やケガは一向に減少せず、交通事故や水の事故に至ってはまさに深刻な状況となっている。本研究では、こうした幼児の事故の実態を把握するとともに、その発生機序を明らかにして、保育者や母親の安全教育の参考にすることを目的としている。さきに第42回大会では、親の安全認識度についての調査結果を中心に報告し、昨年43回大会では「親の養育態度と幼児の安全行動」の第1報として①親の養育態度と事故の関係、②親がみた子どもの行動特性と事故との関連について報告を行なった。今回は、夏休み中の事故の実態（第2報）と、幼児の行動特性および親の養育態度（第3報）についての調査を行ない考察した。

2 研究の方法

調査方法は、幼稚園の夏休み前に事故記録用紙（休み中の事故発生の時刻、場所、状況など11項目のアンケート）を家庭に配り（幼児1名に5枚ずつ）、夏休み後に回収する。一方、親と幼稚園の担任にそれぞれ幼児の性格と行動面の評価を依頼し、親には養育態度についての調査も施行した。

対象は、東京都私立A幼稚園、横浜市私立B幼稚園の3歳から6歳までの園児320名とその母親及び担任である。なお、行動評価および親の養育態度と子どもの事故傾向との関連は、第3報にて報告する。

3 結果

夏休み中の事故調査はA幼稚園（計108名）を対象とした。

①事故の有無 表1に示すように、事故ありは46.3%（3歳50.0%、4歳41.2%、5歳47.1%）である。そのうち同一児で、事故2回は11名（3歳4、4歳4、5歳3）事故3回は3名（3歳2、4歳0、5歳1）事故4回は2名（3歳1、4歳1）であり、事故総数は74件である。

②発生時刻 図2にみるように昼食時間は発生数が少なく、10時台8.1%、11時台17.8%、14時台13.5%、15時台14.9%と子どもの活動時間帯に発生している。

③発生場所と子どもの行動 屋内41.9%、屋外58.1%で屋外が多い。屋内で多いのは居間などの部屋14.9%、次いで玄関・出入り口6.8%である。屋外では道路

16.1%公園など16.1%が多く、プール、海、山林での事故もみられる。何をしている時に事故が発生したかをみると、「遊び、運動、水泳」が圧倒的に多く（67.6%）1位であり、2位「歩行中」（20.2%）とで、殆どを占めている（表2、3）。

④事故の種類と原因 事故の種類は転倒（41.8%）と衝突（25.7%）が多い。事故のきっかけとなったものは道路の凹凸（24.3%）が多く、次いでガラス、自転車、家具の順になっている（表4、5）。

⑤ケガの種類と部位 表6、図2、に示すようにすり傷が半数近い（46.6%）。けがなしは8%である。部位では足・脚が44.6%と多い。けがの処置は放っておいた31.1%、家で手当66.2%、医師の手当は2件である。

⑥事故時の状況および未然の配慮 親の自由記述による事故時の状況を整理したのが表7である。「不注意や危険な動作」が1位で38%弱、次に「はしゃぐ、ふざける」23%、次いで「不慣れな所」約22%、「運動能力の未熟」20%強である。そのほか「急ぐ、せかされる」「不機嫌、眠気」などである。

事故時の状況を踏まえた親の事故防止への配慮を表8に示した。事故を未然に防ぐのに必要なこととしては「子ども自身が気をつける」（43.2%）、「親が気をつける」（35.1%）、「危険物の除去などの環境整備」（16.2%）が上位にあげられている。他に、「この程度の事故は仕方がない」「体験して覚えていくしかない」などの意見もみられた。

5 考察

今回の調査では「遊び・運動中」「歩行中」の屋外での事故が目立ち、外遊びや外出の機会が多い夏休み中の特徴がみられる。また夏休み中は旅行先などの不慣れな所、友達・親戚との交流が多いことからしゃいでいる時も事故発生誘因となっている。不機嫌・眠い時、急にせかされた時も事故を起こしやすい。事故多発の子（3回以上）5例について親の養育態度および親と担任による行動面の評価との関連をみたが1例が担任の評価と多少の関連がみられたのみである。つまりどのような子も事故発生の可能性が考えられる。従って環境を整備し経験を豊かにすると共に心身の状態への配慮が事故防止に役立つと言える。

表1 事故の有無

	事故あり	事故なし	計
3歳児クラス	20(50.0)	20(50.0)	40(100.0)
4歳児クラス	14(41.2)	20(58.8)	34(100.0)
5歳児クラス	16(47.1)	18(52.9)	34(100.0)
計	50(46.3)	58(53.7)	108(100.0)

表2 発生場所

場 所		件数(%)
屋内	間・子ども部屋・寝室	11(14.9)
	玄関・出入口	5(6.8)
	居間・リビング	4(5.4)
	廊下	4(5.4)
	浴室・トイレ	2(2.7)
31件	廊下	2(2.7)
42%	階段	1(1.4)
	その他	2(2.7)
屋外	道路	12(16.1)
	公園・児童遊園・グラウンド	12(16.1)
	川・池	5(6.8)
	海・林・牧場	4(5.4)
	山・庭	3(4.1)
43件	自宅の空き地	3(4.1)
58%	その他	2(2.7)
	計	74(100.0)

表3 何をしている時

	件数(%)
遊び・運動・水泳	50(67.6)
歩行中	15(20.2)
入浴中	2(2.7)
食事・手洗い	2(2.7)
食事中	1(1.4)
就寝中	1(1.4)
その他	3(4.1)
計	74(100.0)

表4 事故の種類

	件数(%)
転倒	31(41.8)
衝突・刺す	19(25.7)
転る・落ち	7(9.5)
転はさむ	6(8.1)
火傷	4(5.4)
ひっかかる	3(4.1)
その他	3(4.1)
計	74(100.0)

表5 事故のきっかけとなったもの

	件数(%)
道路の凹凸・石など	18(24.3)
ガスの車・危険物	10(13.5)
自家車・布団	10(13.5)
人・家具・布	9(12.2)
階段・道具	6(8.1)
遊び道具	6(8.1)
火・火台・ブランコ	4(5.4)
プール	4(5.4)
計	74(100.0)

表6 けがの種類 (複数回答 N=74)

	件数(%)
すり傷	34(46.6)
打ち傷	21(28.4)
火刺	12(16.2)
ケガなし	3(4.1)
その他	2(2.7)
その他	1(1.4)
その他	6(8.1)

表7 事故時の状況 (複数回答 N=74)

	件数(%)
不注意・危険な動作	28(37.8)
はしやぐ・ふざける	17(23.0)
不慣れな場所・旅行先など	16(21.6)
運動能力未熟	15(20.3)
急ぐ・せざる	7(9.5)
機械・不調	5(6.8)
不機嫌・火の被害	5(6.8)

表8 未然に防ぐ方法 (複数回答 N=74)

	件数(%)
本親環が	32(43.2)
人が気をつける	26(35.1)
環境を整える・危険物の除去	12(16.2)
相手が注意する・体で覚える	6(8.1)
手付け・仕方のわからない	2(2.7)
思入れ	2(2.7)
無記入	4(5.4)

図1 事故の発生時刻 (N=74)

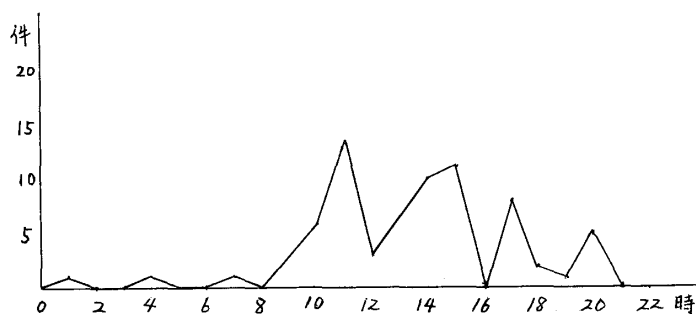


図2 ケガの部位 (複数回答 N=74)

